

和歌山の保険金詐欺事件では生命保険の審査のずさんさも明らかになりました。今日本では全世帯の9割の家庭で生命保険に加入していて保険大国と言われているようです。それだけみんなが死に対して恐怖を抱き社会に対して不安を抱いているということでしょうか。しかし限りある「生」を知ることが、悔いのない有意義な人生を送る第1歩です。  
今を、今日を精一杯生きたいと思います。

< 第 4 0 回 ほほえみの会 >

A 2 ナースの石井さんを含め 7 人が参加しました。  
今回は治療を終えている方の参加が多く退院した後の悩みを中心に話し合いました。

退院後幼稚園で初めての運動会があり 1 等賞を取った。親も祖父母も共に感動し涙した。  
しかし体の発達が遅く身長は少し伸びたものの体重が全然増えない。また治療の影響か、歯が弱く虫歯になりやすい。

移植をして 1 年。先月突然血尿。腎臓に石ができていた。  
今のところ痛みもないしそのままにしている。  
化学療法は悪い細胞をやっつけてくれるが合わせて正常な細胞をも壊している。今後もしんな影響が出るか心配。  
やはり身長、体重が伸びない。

これに対し他の方からは、子どもは回復すると急に元気になる。身長、体重もある時から突然に増えることがあるので今心配する必要はないのではないかと。目の前の病気を治すことが大事。  
またそれでも身長の伸びが少なかったため自宅で成長ホルモンの注射を毎日している。こちらから打ち始めて半年後ぐらいから成果が出始め今、身長が月におよそ 1 センチずつ伸びている。

予後を考え放射線治療も以前にも増して照射量に気を配っている。以前東京の病院に転院した時の話。

やはり他から転院して骨髄移植を受けようとしている人がいた。その人は調べてみるとそれまでの治療で既に規定以上の放射線を受けていてさらに照射はできない状態にあった。結局骨髄移植もできなかった。  
今はプロトコルができ全国の病院で統一されているようだ。

退院して学校に行くようになったのは良いが朝になるとどこかが痛いと言って学校に行きたがらない。学校まで送ってあげれば良いが家を出るまでが大変。

これをきっかけに教育論が噴出しました。

「学校の先生の資質に問題がある」「先生に熱意がない」「親を気にするあまり厳しさが足りない」「昔は親は先生を批判することはできなかった」「小学生の高学年から押し込み教育になり難しいことを速いペースで教えていく」「病院の先生は治療でも子どもが納得するまで話をしてくれた。学校の先生は理由を言わずに怒るケースが多い」

病気をした子は普通の子以上に教育にも気を遣います。

県は長泉町に建設する「がんセンター」で当初予定していなかった「小児の診察」をすることに最終的に決めたようです。  
また今のこども病院も新たな無菌室などを含めた新病棟の検討をしているという事です。

「のぞみ静岡支部会」が 10 月 25 日（日）静岡市のアイセルで開かれます。  
今回は子どもを亡くした親を主体に講演と懇話会を開くということです。バザーも開かれます。

次回は 11 月 8 日（日）時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一